

第 23 回 未来からの留学生

報告書

香川大学教育学部

目次

第 23 回 未来からの留学生 を終えて.....	3
1. わくわく！シャボン玉♪.....	6
2. 3匹のこぶたのせかいへようこそ！.....	8
3. あなたもソリスト！！コンサートをしよう♪.....	9
4. 古典の世界をのぞいてみよう！.....	10
5. 昔の遊びとおもちゃで楽しもう.....	11
6. スライムの日曜日.....	12
7. Travel Around the World ―世界を旅しよう！クイズ.....	13
8. 逆さの世界でダンボール迷路 ～トリックアートもあるよ.....	14
9. ねる○るねるねをつくろう.....	15
10. 夢化学 21 in Kagawa.....	16
12. バルーンを使って自分だけのアートを作ル～.....	18
13. みんなで変身！魔法のステッキづくり！.....	19
14. はなて！空気砲！.....	20
15. 木で手作り楽器を作ってみよう！.....	21
16. 図形の不思議さ.....	22
17. 折り紙マンとゆかいな紙々.....	23
18. よごれにアタック！今日からきみも洗たくレンジャー.....	24
19. おはなしのくに 2024.....	25
20. 運動あそびの学校.....	26
21. 教育学部 SDGs 紹介.....	27
22. 紙コップワールド.....	28
23. 太陽黒点を見てみよう.....	29
24. 折り紙パズル.....	30
25. なりきりアートギャラリー.....	31
26. Zutto Mott ふるさと.....	32

第 23 回 未来からの留学生 を終えて

実行委員長 吉川 暢子

この度、第 23 回未来からの留学生を令和 6 年 10 月 13 日（日）に実施致しました。

事前予約では、多くの申し込みをいただき、その中から 約 520 名のみなさまに講座当選のメールをお送りさせていただきました。当日は講座に参加されるお子様だけでなく保護者の方やきょうだいの皆様など合わせて約 1000 名の地域のみなさまにご参加いただきました。

第 23 回未来からの留学生では事前の完全予約制として、午後からの開催としておりますが、一人でも多くの子どもたちが参加できるように昨年度よりも 5 講座を増やしました。また、参加された方ならどなたでも参加できる自由講座も 3 講座、新規開講しました。

特に自由講座の中にある「Zutt Mott ふるさと」は香川県教育委員会様の協力のもと開講されました。

「教育学部フェスティバル」と銘打つ本事業は、大学を地域に公開することにより、本学部と地域を繋ぐ活動として大きな目的をもつ一方、活動の企画や運営を通じて学生自身が子どもとの接し方を学ぶという目的を併せもっております。

各領域からの報告には、企画・実践・振り返りを通した学びの成果や、子どもとのかわり方への気づき等に関する学生の記述であふれています。これらの記述は、本事業が後者の目的をはたしていることを示しています。本報告書をお読みいただければ、学生の学びの姿とその成長を実感いただけるものと思っております。

最後に本事業は、香川県教育委員会のご後援を受けて実施され、教育学部事務職員、各領域担当教員ほか、多数の皆様によるご協力のもと実施されました。本年度の活動の実施に関しまして多方面からご尽力頂きましたことに深く感謝いたします。

今後も地域のみなさまのご期待に沿える大学となれるよう大学職員一同努力してまいります。どうぞ来年度以降の活動につきましても変わらぬご理解・ご支援を賜りますようお願い致します。

各講座の報告

■ 未来からの留学生について

香川大学教育学部では、未来の「アーティスト」や「科学者」、「学校の先生」などを夢見るみなさんが、いろいろな体験を通して大学のよさを知るための体験入学を企画しました。大学生のお兄さん、お姉さんたちと一緒に、楽しい時間を過ごしてみませんか？ご参加お待ちしております。事前申込型講座はホームページから申し込んでください。 ※申込期間：9/6(金)～9/13(金)

高校生とその保護者のための入試相談会（13：00～15：00、事前申込不要）も同時開催しています。

事前申込型講座一覧

受付開始 12:30

1時間目 13:00～13:45 / 2時間目 14:05～14:50



※事前に申し込んで当選した人だけが参加できるよ。時間に遅れないように来てね！

講座番号	1	2	講座名	内容	対象・担当・注意事項
1-1			わくわく！シャボン玉	みんな大好きなシャボン玉で思いっきり遊ぼう！！	幼・小1～6、各20名。片岡元子、幼児教育コース学生。服が濡れたり、汚れたりする可能性があります。また、タオル等をご持参ください。
1-2			ようこそ！	3匹のこぶたの形劇が見れるよ！劇の後には、みんなで工作をして遊ぼう！	幼・小1～2、各30名。片岡元子、幼児教育コース学生。
2-1			3匹のこぶたのせかいへ		
3			あなたもソリスト!! コンサートしよう♪	あなたの大好きな曲を演奏しませんか？ソロ、合奏、独唱、合唱など、演奏者大募集。大学生も楽しい曲を演奏するよ。一緒にリズム遊びもしてみよう！	小1～6、1組3分まで、7組(1組1～4名)。青山夕夏、音楽領域学生。ピアノ以外の演奏楽器はご持参ください。
4-1			古典の世界を	百人一首を体験して、日本の歴史や古典の世界にふれてみよう！	小1～6、各20名。浅井哲司、国語領域学生。
4-2			のぞいてみよう！		
5-1			昔の遊びとおもちゃで	こま、けん玉、めんこ、お手玉などの昔のおもちゃや昔の遊びを体験しながら、楽しく遊ばせよう。	幼児～小6、各20名。鈴木正行、社会領域学生。
5-2			楽しもう！		
6-1			スライムの日曜日	ふわふわスライム、ボンズスライム、キラキラスライム、スライムボールを作ってみよう！	小1～6、各20名。寺尾 徹、生活・総合領域学生。 タオルをご持参ください。
6-2					
7-1			Travel Around the World	色々な国のスポーツ・服・食べ物などのクイズを英語で楽しもう！英語で世界中を体験しましょう！	小4～6、各25名。杉田貴博、英語領域学生。
7-2			～世界を旅しよう！クイズ		
8-1			逆さの世界でダンボール迷路	逆さメガネをかけて、ダンボール迷路に挑戦しよう！	小1～6、各20名。岡田 涼、心理領域学生。
8-2			～トリックアートもあるよ～		
9			ねる○るねるねを 作ってみよう	身近な材料でねる○るねるねを作ってみよう！どうして膨らむのかな？	小4～6、24名。松本一範、理科領域学生。
10-1			夢化学21 in Kagawa	磁石につく不思議な液体やフニボールすくいをしてあそぼう。化学の日の缶バッジや元素記号カルタなどの展示もあるよ。	幼・小1～6、各12名。高木由美子、日本化学会中国四国支部主催行事とのコラボ企画。
10-2					
11			おもしろ算数・数学教室	はさみとのりを用いて、広さを変えないで図形を変身させます。算数が好きな人もきらいな人も、みんなでいっしょに算数を楽しみましょう。	小学校中学年以上(ただし、低学年は保護者同伴で可能)、10名。杉野勇気、数学領域学生。のり、はさみ、ものさし、えんぴつをご持参ください。
12-1			バルーンを使って	風船を使って動物やキャラクターを作ろう。大学生と一緒に世界に一つだけのすてきな作品を作ろう！	小1～6、各15名。小方朋子、特別支援教育領域学生。
12-2			自分だけの魔法の ステッキを作ってみよう！	光る粘土と棒を使って、あなただけの魔法のステッキを作ります。ステッキを暗い部屋で光らせて、魔法使いになっちゃおう！	小1～6、12名。伊 智博、美術領域学生。 汚れてもよい服装でおこしください。
13					
14			はなて！空気砲！	発射した空気はどのように動いているのかな？空気砲で遊びながら観察してみよう！	小1～6、24名。松本一範、理科領域学生。
15-1			木で手作り楽器を	木でリユールシロフォン(円形木琴)を作って、音を奏でてみよう！自分で作った楽器はどんな音がするかな…？	小1～6(低学年は保護者同伴)、各10名。 黒田 勉、技術領域学生。
15-2			作ってみよう！		
16			図形の不思議さ	展開図から組み立てて正四面体、正十二面体など5個の立体を作ります。そして、それぞれの頂点、辺、面の個数を数えて表に記入し、その秘密を明らかにします。	幼・小1～6、10名。四ツ谷直仁、数学領域学生。筆記用具、消しゴム、セロテープ(またはのり)をご持参ください。
17			折り紙マンとゆかいな紙々	折り紙マンといっしょに、折り紙を折って切っていろいろな図形をつくろう。	小1～6、10名。高野啓生、数学領域学生。はさみをご持参ください。
18-1			よごれにアタック！	よごれの種類を見きわめて、手ごわい敵をやっつけよう！ラストボスは○○○○？	小1～6、各16名。一色玲子、家庭領域学生。エプロンと手拭きタオルをご持参ください。
18-2			今日からきみも洗たくレンジャー		
19-1			おはなしの国へようこそ！	今日のおはなしは『にじいろのさかな』私たちとおはなしの世界をのぞいてみよう！！	幼・小1～2、各30名。櫻井佳樹、教育領域学生。
19-2			おはなしの国2024		
20-1			うんどうあそびの学校	鬼ごっこやボール遊びなど、おねえさん・おにいさんが考えたあそびをしながら、みんなといっしょに体育館を走り回ろう！	小1～6、各30名。上野耕平、保健体育領域学生。 体育館シューズをご持参ください。
20-2					

※上記講座に当選して大学に来てくれた幼児・児童のみなさんは前後の空き時間でいつでも下記6つの講座に参加できるよ！

講座番号	時間帯	講座名	内容	対象・担当・注意事項
21	13:00～14:50	教育学部SDGs活動紹介	教育学部教員・学生が関わっている SDGs 活動の紹介。自由に立ち寄って見てね。	当選した幼児・児童はどなたでも見学可能です。高木由美子
22	13:00～14:50	紙コップワールド	10,000個の紙コップで何が作れるかな？いろんなものを作ってみよう！	当選した幼児・児童はどなたでも参加可能です。片岡元子
23	13:00～14:50	太陽黒点を見てみよう！	普段は気にしない太陽ですが、太陽を観察すると、黒点が見えることがあります。屋上の望遠鏡で見てみましょう。	当選した幼児・児童はどなたでも見学可能です。松村雅文 雨天・曇天の場合は中止します。
24	13:00～14:50	折り紙バズル	折って折って同じアリの絵をそろえてみよう～キミはいくつできるかな？～	当選した幼児・児童はどなたでも参加可能です。吉澤樹理
25	13:00～14:50	なりきりアートギャラリー	絵画になりきって写真が撮影できるブースがあります。美術講座の学生が制作した作品等も紹介します。	当選した幼児・児童はどなたでも参加可能です。伊 智博・吉川暢子
26	13:00～14:50	Zutt Mott ふるさと	ふるさと香川のよいところを集めたかるたの体験や、しおり作りができます。お薦めの本コーナーもあります。	当選した幼児・児童はどなたでも参加可能です。香川県教育委員会

※当日午前7：00に警報が発令されている場合や新型コロナウイルス感染症の感染拡大の可能性がある場合には、対面での実施を中止します。

詳しくは、表(おもち)面のQRコードから「未来からの留学生」ホームページをご確認ください。

※ご来場のみなさまの当日の様子を写真・動画撮影し、事業報告資料や本学部広報資料等に活用させていただきます。ご了承ください。

わくわく！シャボン玉♪

担当学生：幼児教育コース学生 担当教員：片岡元子先生



今年もシャボン玉の講座を開きました。雨が降ることもなく天気に恵まれ、青空にキラキラとシャボン玉が浮かんでいる様子がとても綺麗でした。

子どもたちは団扇やストローで小さなシャボン玉をたくさん作ることを楽しんだり紐で大きなシャボン玉を作る少し難しいものに挑戦したりして思い思いにシャボン玉を楽しんでいました。

室内で実施しようとしていたシャボン玉版画は途中で思い切って外に出すことにしました。外に移動したことで紙だけではなく地面の上で楽しむ姿が見られたように思います。シャボン玉だけではなくその泡の様子から見立てて遊ぶ子どもの姿がありました。

幼児教育コース3年 大井菜々実

2. 3匹のこぶたのせかいへようこそ！

担当学生：大平もも、中村由起、廣瀬加奈 担当教員：片岡元子先生



今年は3匹のぶたの人形劇を行い、その後、子豚のけん玉を工作しました。子どもたちが、こぶたの手遊びや劇中の掛け声や歌を、大学生の真似をしながら一緒に楽しんでいました。

【学生の感想】

人形劇の練習をはじめ、人形劇とつながりがあり、子どもたちが楽しめるような工作を考え、準備を行いました。オープンキャンパスでも高校生に対して同じ劇を行いましたが、実際に子どもの前で劇を行ったことが無かったので、不安な部分はありませんでしたが、掛け声や歌と一緒に楽しんでくれる様子が見られたので、よかったです。

工作では、どの年齢でも楽しめるように、様々な大きさの材料を準備したり、ふりがなを振った説明書を作成したりなどの工夫をして準備を行いました。完成したけん玉で遊んでいる際に、難しそうにする様子も見られましたが、成功したときにはとてもうれしそうに大学生や保護者に見せてくれました。早く作り終えて長く遊ぶ子どもがいたり、紙コップに絵を描くことを楽しむ子どもがいたりして、十人十色の楽しみ方があることを学びました。



幼児教育コース2年 中村由起

3.あなたもソリスト！！コンサートをしよう♪

担当学生：音楽領域学生 担当教員：青山夕夏先生



↑音楽棟ホールで記念撮影



↑演奏の様子



↑レッツ・リズムパーティーの様子

音楽領域では昨年度に引き続き、「あなたもソリスト!!コンサートをしよう♪」を実施しました。子どもたちによる演奏や学生が伴奏を担当した曲もプログラムとなりました。子どもたちから事前に送っていただいたり、担当者が選択したりした写真も上映しながらお聴きいただきました。リハーサルの時間は限られていましたが、練習の成果が表れた素晴らしい演奏がホールに響き、素敵なコンサートになりました。また今年の新しい試みとして「みんなでリズムレッツ・リズムパーティー！」を企画し、子どもたちや保護者の方、学生が“アンダー・ザ・シー”に合わせて3種の楽器を使ってリズムあそびを行いました。全員にご参加いただき、子どもたちも笑顔いっぱいの演奏で、会場全体が一体となった、充実したひとときとなったのは大きな喜びでした。

【参加して下さった保護者の方の感想より】

- ・子ども自身が選んだ好きな曲で楽しく演奏することができた
- ・初めて実施したリズムパーティーはみんなで1つの曲を演奏することが楽しかった
- ・来年もぜひ参加したい

【来年に向けて】

反省点としては、当日までにもう少し準備の期間をしっかりと計画的に行うこと、学生間の役割分担を明確にすることが挙げられます。直前の変更や配置転換もあり得ることなので、充分に事前の検討を行っておくことや、臨機応変な対応や工夫も必要だと痛感しました。ご参加の皆様には有意義な時間を過ごして頂けるよう、来年に向けて準備を進めたいと思いました。

音楽領域2年 石上菜々子

4. 古典の世界をのぞいてみよう！

担当学生：瀧口莉生・西原花菜・村上華巴・森宙斗・山本優羽・渡部心結・我部山来美・中村空
担当教員：浅井哲司先生

国語領域は「百人一首」をテーマとした講座を421講義室で開講した。小学生にとってはあまり触れる機会のない和歌を題材にすることで少しでも楽しく和歌に興味を持ってもらえるように講座を計画した。

本講座の活動は「源平合戦」を行うグループ、「坊主めぐり」を行うグループの2つに分かれて行った。子どもたちの希望などから、大学生も一緒に活動することとなった。

《源平合戦》

参加した子どもたちは、最初緊張していたが、ゲームが始まると集中して札を取ろうとしていた。札が取れると嬉しそうにしている様子も見受けられた。なかなか札が見つからない時は、大学生と一緒にって札を探したり隣で初めの文字などを言ったりすることで、札を取ることができ、笑顔が見られるようになった。



《坊主めぐり》

「源平合戦」と同様に、子どもたちは緊張している様子だった。しかし、ゲームが進んでいくと捨て札が多くなり姫の札が取れると子どもたちの喜ぶ声や様子を見ることができた。また、子どもたち同士で「姫の札あるかな」や「坊主が出てきたら困る」などの会話が生まれていた。

本講座では募集上限の人数よりも参加者が少なかったが、だからこそ大学生と子どもたちの距離が近くなり、和歌を通してコミュニケーションを深めることができた。前日の準備をする際には子どもたちの視点から教室を観察し、危険な場所がないか、当日どのようなことが起こりうるか考えて椅子や机の配置を考えた。加えて、来てくれた子どもたちが楽しめるように折り紙や造花で装飾をした。当日は子どもたちと保護者の方々に接することで、どうすれば子どもたちや保護者の方々が楽しい時間を過ごすことができるかを考えた。和歌を通して子どもたちと関わる機会によって、子どもがどのような活動を通して言葉を学んでいくことができるのか考える貴重な時間を過ごすことができた。

5. 昔の遊びとおもちゃで楽しもう

担当学生：社会領域 桑原悠人 担当教員：鈴木正行先生



今年は昔遊びとおもちゃの講座を開き、教室内でけん玉、わなげ、だるま落とし、あやとり、折り紙などを、屋外では竹とんぼを使って遊びました。スタンプラリー形式を採ったので、子どもたちは多くの種類のおもちゃを使って遊びました。中には「このおもちゃ持って帰りたい」と言う子どもたちもあり、終始楽しんでいました。

【学生の感想】

子どもたちにできるだけ多種のおもちゃと遊びを体験してもらうために、仲間たちとアイデアを出し合い、スタンプラリー形式を採りました。また、幼児から小学校高学年と幅広い年齢の参加者に対応するために、難易度を分けたりおもちゃの大きさを分けたりする工夫をしました。こまやけん玉などは技術を必要とするため、授業の空き時間にお手本となるように練習をしました。しかし、当日では私たちより断然上手な子どもや保護者がいましたので、逆に学生が教えてもらう場面も見受けられ、学生としても遊びを楽しむことができました。



このイベントでは、楽しむだけでなく学びもありました。それは、子どもたちの発達段階に合わせて難易度や道具を工夫することの必要性です。また、子どもたちの自由に任せることの必要性も感じました。大人は良かれと思って子供に教えてあげようと思いますが、それは逆に子どもの可能性を小さくしていることになると思いました。



小学校コース2年 山中航介

6. スライムの日曜日

担当学生：生活・総合領域学生 担当教員：寺尾徹先生



今年はハロウィンをテーマに、スライムの講座を開きました。ハロウィンらしい飾り付けと仮装で、子どもたちを迎えました。一般的なスライム、そこに蓄光パウダーを混ぜて作る、光るスライム、シェービングフォームを混ぜて作る、ふわふわスライムの3種類から1つ、子どもたちに選んでもらうスタイルにしました。子どもたちは、スライムをこねて伸ばして一通り遊んだ後、スライムをストローで膨らませたり、カボチャの顔部分を切り抜いた紙コップから押し出して遊んだりして、時間いっぱい楽しんでいました。

【学生の感想】

スライムを初めて作る子どもでも、上手にできるように、子どもたちが自分で作業するところと、学生が手伝うところを予め決めておきました。洗濯のりを計量カップで計って入れる作業は、子どもたちに任せることで、自分で実験をしているワクワク感を味わってもらえるようにしました。スライムは、ホウ砂水の濃度によって出来が変わってきます。そのため何度も実験してとり着いた、理想的な濃度のホウ砂水は、各グループの学生に少しずつ入れてもらうことにしました。これらの工夫により、どの子も上手に作ることができていました。「見てみて、すごく伸びるよ!」と、完成したスライムを嬉しそうに見せてくれました。また

子どもたちの「スライムに色を付けたい!」という声にも臨機応変に答え、絵の具やマーカーで着色できるようにし、自分だけのスライムを作れるようにしました。当初、スライムを伸ばして遊ぶだけでは、子どもたちがすぐに飽きてしまうのではないかと不安がありました。そこで皆で話し合い、光るスライムを覗くコーナーを作り、膨らませて遊ぶためのストローや、スライムを押し出して遊べるようにするための、ハロウィン仕様に切り抜いた紙コップを用意することになりました。それらを使って最後まで楽しそうに遊んでいる様子を見て、とても安心しました。子どもたちのために一生懸命準備してきたからです。

生活・総合領域2年 山崎大輝・山下ひとみ

7. Travel Around the World ―世界を旅しよう！クイズ

担当学生：英語領域学生 担当教員：杉田貴瑞先生



○概要

今年は様々な国に関するクイズを英語で行いました。英語がわからない児童にも、ヒントを提示したり、一緒に考えたりすることで最後まで楽しむことができました。

最初に”Simon said!”（命令ゲーム）で児童たちと一緒に学生も体を動かしました。児童や保護者もアイスブレイクをした後、世界の地域ごとのクイズに移って楽しみました。

様々な国について、国旗や料理などバリエーション豊かなクイズを行いました。

○学生の感想

・今回の未来からの留学生では、たくさんの児童と関わることができたことが一番大きな経験になったと感じました。特に、命令ゲームをさせてもらったことが印象に残っています。児童の前で何かをすることはあまり経験がなかったのですが、三年次の実習では授業も行うため、確かな力になったと感じます。また、これから、共に切磋琢磨していく英語領域の他学生の人たちとも絆を深められたと思います。

（英語領域2年生 石井瑠人）

・今回行ったクイズでは、予想していたよりも児童が世界の国について詳しくだったので、学生が一方向的に問いかけたりヒントを与えたりするのではなく児童側からも知っていることを教えてもらい、コミュニケーションをとりながら楽しんで世界の国について知ってもらうことができましたと思います。今回児童と関わった経験を今後の実習などで活かしたいと思います。

（英語領域2年生 鈴村咲菜）



英語領域2年 石井瑠人 鈴村咲菜

8. 逆さの世界でダンボール迷路 ～トリックアートもあるよ～

担当学生：心理領域コース2年生 担当教員：岡田涼先生



本年度心理領域では迷路を作り子どもたちと交流を行った。本年度は前日丸一日を使い準備を行った。写真1枚目と2枚目は待合室の様子である。例年中に入ることができる人数が非常に少なく待合室を設けている。待合室の子どもは折り紙を折ったり、お絵描きをしていた。どの子どもも退屈せず楽しんでいる様子であった。3枚目と4枚目の写真は迷路の様子である。迷路では錯視やトリックアート、思い込みを利用したブースをクリアしながらゴールを目指すものであった。非常に好評で多くの子どもたちが楽しそうにしていた。全体的にどの年代の子どもたちも楽しむことはできる未来からの留学生となったと思う。学生からは子どもと直接かかわる機会が少ない中で、今回の機会があったことでとても貴重な経験となったという感想が多かった。今回の経験は今後、教育学部として子どもとかわるときに大きな糧となることは間違いないと考える。この経験を通して全体的に教育への関心がさらに深まったと思う。

心理領域コース2年生 足立宇則

9. ねる〇るねるねをつくろう

担当学生：理科領域学生 担当教員：松本一範先生



子どもたちになじみがあり、興味を引くことができる知育菓子「ねるねるねるね」を題材にした。粉を混ぜ合わせるとモコモコ膨らむ理由と色が変化する理由を実際に作りながら考えた。子どもたちは色の変化や音の変化に対して、新鮮な反応を示した。さらに、保護者からも、材料についてさらに質問があり、年齢を問わず興味を引くことができた。

【学生の感想】

小学生には、難しい化学反応の解説は省き、なぜ、モコモコ膨らむのかということに関しては、クエン酸と重曹が反応するから、ということだけにとどめた。参加対象者は小学校4～6年生であった。



子どもたちが授業に飽きないようにするために、説明と実験の時間を半分ずつにした。説明中、子どもたちに質問を投げかけた際には、予想通りの解答を得ることもあったが、予想に反した解答が出ることもあり、司会者が少し困惑する場面もあったが、そのような解答に対しても司会者はうまく受け答えできたと同時に、子どもたちの新鮮な反応を見ることができたので、授業に対して、達成感を感じた。



今回、事前準備の大切さを痛感した。授業の直前に説明用のスライドの不備や、修正箇所が見つかり、授業を修正したので、事前準備はもっと早めに行うべきであったと反省している。しかし、子どもたちが授業を楽しむことができるように、自由に遊ぶことができる時間やクイズの時間を設けるといった良い点も見つけることができた。来年の教育実習に、今回の経験を活かしていきたい。

理科領域小学校コース 香西徳太郎

10. 夢化学 21 in Kagawa

担当学生：理科領域高木ゼミ 小野玲奈 吉野涼 福田嶺 担当教員：高木由美子先生



「夢化学 21 in Kagawa」は、日本化学会中国四国支部が主催する行事で、化学の啓発や化学産業の社会への貢献についての理解促進を目的として、1993年から実施されているキャンペーン事業です。香川大学ではこの「夢化学 21」と連携し、毎年関連イベントを開催しています。大学の学生が主体となり、夢化学 21 のブースでオリジナルの実験や、学生が考案した実験を準備し、実施しています。今回の「未来からの留学生」では、昨年と同様に、磁石にくっつく不思議な液体（磁性イオン液体）の作成とぶにぶにボールすくいの二つのブースを用意しました。磁性イオン液体の作成実験は、児童一人一人が作成できるように個別にキットを配布しました。キットの作成の前に、事前に用意した紙芝居を用いてイオン液体についての説明を行いました。作成・実験では、うまくできるように、学生が子どもたちの様子をしっかりと見てサポートできるよう対応しました。磁石で動くイオン液体の様子を、興味を持って観察する子どもたちの姿が見られました。

ぶにぶにボールすくいでは、遊ぶ前に、なぜ液体と液体からボールができるのかを説明し、ぶにぶにボールができる様子を見せる演示実験を行いました。ボールができた瞬間には、子どもたちに実際に触らせ、「液がボールになった！」と興味津々に触れていました。

どちらのブースでも、子どもたちが「楽しい」と言ってくれたことで、理科が好きになるきっかけを提供できたのではないかと思います。次回の開催に向けて、さらに子どもたちが楽しめるよう、改善点を考えていきたいと思います。

理科領域高木ゼミ 4年 小野玲奈

11. おもしろ算数・数学教室

担当学生：阿部香帆、石原佑夏、岡田陽都、佐藤杏南、立花匡平、渡辺涼人
担当教員：杉野本勇氣先生

今年も等積変形の講座を2時間続きで開き、色紙やハサミ、鉛筆など用意して図形の面白さを伝えました。1時間目と2時間目の間には休憩時間を設けていましたが、ほとんどの子ども達はこの休憩時間にも熱心に取り組み続けていました。

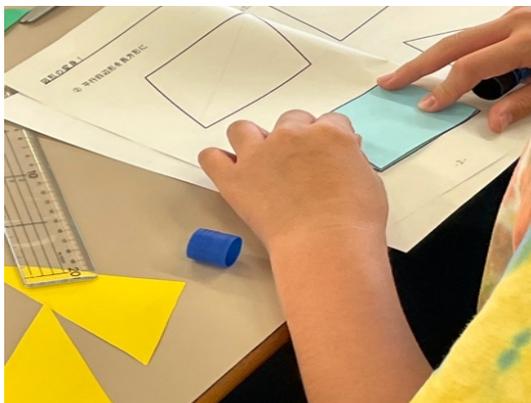
導入部分では2つの図形を見せて「どっちが大きいかな？」と聞いて予想してもらい、



黒板で変形の仕方を説明しました。これによって形は違うが大きさが同じ図形があること、図形を重ねたらどう変形すればよいかが見えてくることなどを理解することができ、自分で考えたい、やってみたいと思ってくれたのではないかと思います。使う図形を色分けして、たくさんの色を用意しておき、ハサミで自由に切って失敗しても色紙が足りなくならないようにしたり、わからない際に自由に使えるヒントカードという大きめの板の図形を教室後方に置いておいたりなど子どもたちが楽しく自由に考えられるように工夫しました。



後半の等積変形は難易度が高く、保護者の方々も頭を抱えており、また私たちも予習なしでは思いつかないような等積変形もあるため「なんでこうなるのか」「どうやって切るための線を引けばよいのか」と、こどもたちと一緒に試行錯誤して完成させる場面も多くみられました。



このイベントを通して楽しむだけでなく、授業をする難しさを学ぶことができました。授業を行う際には、あらかじめ子どもたちに何を質問されるか予想してそれに答えられるように深く理解しておくことが必要であると思いました。様々な経験をさせてもらったことを、この場借り、お礼申し上げます。

数学領域2年 佐藤杏南

12. バルーンを使って自分だけのアートを作ル〜ン

担当学生：小学校教育コース特別支援教育領域学生 担当教員：小方朋子先生



今年もバルーンアートの講座を開き、422 講義室内に剣、ハート、犬、フリースタイルのブースを作り、バルーンアートを楽しみました。子どもたちは、剣、ハート、犬それぞれのブースで作ったバルーンアートにマジックでイラストを書いたり、フリースタイルのブースでウサギやプードルなど様々なバルーンアートを作ったりして、自分だけのアートを作って楽しんでいました。

【学生の感想】

私は、事前の練習でバルーンアートの難しさを体感していたことから、子どもたちが投げ出して学生に「難しい！先生作って！」と言うことが想定されました。

それを避けるため、ブースを設けて子どもたちを5人ずつ3グループに分け、子ども1人に対して学生が最低でも1人以上対応できるように学生を配置するという工夫をしました。さらに、剣、ハート、犬といった簡単な題材を選びました。その結果、1回目の講座はかなり早いペースで進み、バルーンの数足りなくなるのではないかと心配になるほどでした。そこで、2回目の講座ではバルーンを3本最初に配り、消費のペースを抑えることでバルーンが足りなくなる事態は免れました。子どもたちからは笑顔が溢れていて、それだけ子どもたちがバルーンアートを楽しんでくれた証拠かなと思っています。たくさん悩み、たくさん工夫して、一生懸命取り組んだ分、子どもたちを楽しませることができたと同時に、私自身も楽しめることができたのだらうと思っています。

小学校教育コース特別支援教育領域2年
河江祐一郎

13. みんなで変身！魔法のステッキづくり！

担当学生：美術領域 担当教員：尹智博先生

本講座では、蓄光粘土を利用して、子どもたちオリジナルのステッキを制作し、自分自身のアイデアを形にして表現できることを目標として開講した。暗闇の中でステッキを光らせるまで「どのように光るのか」、光らせた後もさらに「もっと飾りつけをしたい」といった子どもたちのワクワク感が感じられる講座を提案した。

準備では、粘土をこねる作業、部品の接着作業、造形作業、装飾作業といった複数の工程を順序良く制作ができるよう工夫して計画した。子どもたち1人ひとりの制作スピードを考えながら、時間配分を考えることが計画する上で難点であった。しかし、速く制作が終わった子どもたちが時間の無駄が出ないよう、事前に見本として制作しておいたステッキを光らせる時間を設けることで、想像のイメージを膨らませることができるよう工夫した。

また、ただステッキを制作するのではなく、「魔法の教室で魔法の道具を作る」といった子どもたちがワクワクしそうなテーマを考え、「ハロウィンに向けて変身ができる」といったストーリーにすることで子どもたちの興味を引くことができるよう本講座の流れを考えた。

本番では、子どもたちが事前にどのようなステッキを制作したいか考えていたため、スムーズに作業が進行した。子どもたちが何度も暗闇にステッキを光らせに行く様子を見ることができ、「もっと他の形を作りたい！」と自分なりのアイデアを大きく広げていく様子を見ることができた。子どもたちは、粘土の色をマール模様にしたり、粘土にラメを混ぜたり、あえて粘土の形を作らずそのものを形として利用したり、私には考えられなかったアイデアで驚きばかりであった。本講座の最後には子どもたちと制作した自分だけのステッキを掲げて「ハッピーハロウィン！」と叫んで、講座が終了した。

講座内容や準備物、安全の配慮等すべて1からの計画で大変であったが、最初から最後まで、子どもたちの楽しそうな様子や笑顔を見ることができ、やりがいを感じることもできた。



美術領域 2年 葭本和波

14. はなて！空気砲！

担当学生：理科領域学生 担当教員：松本一範先生

理科領域では空気砲についての講座を開き、「ペットボトル空気砲」と「段ボール空気砲」

を用いて遊んだり、空気の流れを勉強したりしました。講座の途中では子どもたちの喜ぶ声が聞こえ、終了後には何人かの子どもが「とても楽しかったです」と僕に直接伝えてくれました。

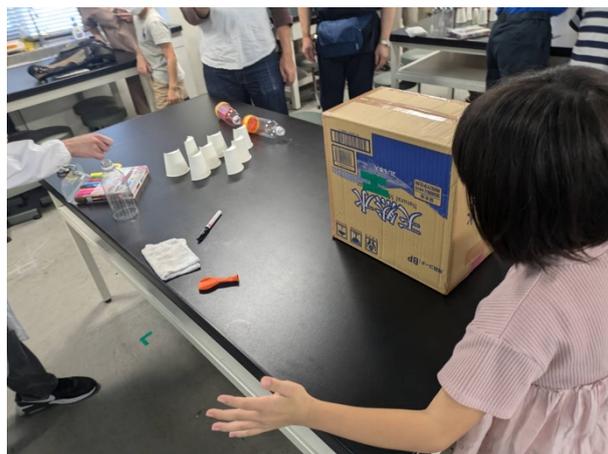
【学生の感想】

最初にペットボトル空気砲と段ボール空気砲でのあてゲームを行い、その後、線香の煙を空気砲内に入れて空気砲を放ち、空気砲の弾が飛ぶ様子を観察しました。ここでは子どもたちが飽きないように、カラーペンで空気砲を自由にデコレーションしてもらうなどの工夫をしました。結果的にカラフルな空気砲がたくさん出来上がり、子供たちも楽しそうにしていたので成功だったと感じました。

遊ぶだけで終わらないようにも工夫しました。最初子どもたちには丸く穴を開けた空気砲から放たれる弾を見てもらい、その弾が丸いことを確認した後、四角い穴を開けた空気砲からはどんな弾が放たれるのかクイズを行いました。四角い弾や、煙のままで形にならない弾など子どもたちから様々な意見や考察が飛び交いました。

今回のイベントでは、事前準備の大切さを学びました。うまくいった準備もあれば、直前になってからようやく気付いて慌てて準備したものもありました。実験のリハーサルを行う際には、子供たちの反応をよく予想し、それを踏まえた準備を行うことが大切なのではないかと感じました。

中学校教育コース3年 清広和



15. 木で手作り楽器を作ってみよう！

担当学生：技術領域学生 担当教員：黒田勉先生



今年は木で手作り楽器を作ろうということで、リュールシロフォンの製作講座を開きました。安全面上、のこぎりを使わせることは出来ませんでした。しかし、紙やすり・金槌等を使わせたり、音盤の部分に檜材を用意することで香りを楽しんだりなど、楽しく楽器製作をすることができていました。

【学生の感想】

あらかじめ45分の講義時間内に製作を完了できるように、製作キットを一から準備しておきました。また、製作中のミスも予想し、材料の予備も準備しました。そして、製作キットにも2つの工夫を施しました。1つ目は音盤と土台にそれぞれ対応するアルファベットを振っておいたことです。8枚ある板をどこに接着するかを言葉で説明するのではなく、視覚的に分かるようにすることでスムーズに作業できるようにしました。2つ目は、音盤の釘を打つ部分に下穴をあけておいたことです。そうすることで、より釘を打ちやすくしました。しかし、1回目の講義で薄い檜材が釘を打つ時にたくさん割れてしまいました。そこで下穴を貫通させることで、対応することができました。また入口や後ろにクイズを準備することで、早く製作を終了した子が退屈しないようにしました。

このイベントでは、子どもの製作中のサポートの仕方を学ぶだけでなく、イベント前の準備の大変さと重要性も学ぶことが出来ました。また同時に、安全面への配慮の難しさも学ぶことが出来ました。



試作したリュールシロフォン

技術領域2年 稲田美祐

16. 図形の不思議さ

担当学生；福井、中村、河合、島村、八杉 担当教員：四ツ谷直仁先生

本講座は、5種類の正多面体を展開図から組み立て、面、頂点、面の数の関係を明らかにすることを目標として開講した。



準備では、展開図を作成したり、子どもたちが楽しい場所だと思えることができるように黑板アートをしたりした。特に展開図に関しては、子どもたちが立体を組み立てやすいように、折り目に線を引くというような工夫を行った。また、グループワークという形式でほかの子どもたちの作業の様子や進度が見やすくなるような工夫も行った。

授業の導入部分は、基本的な円、三角形、四角形の名称の確認と、身の回りにそのような図形はあるのか考えさせた。それらは平面図形ということを知り、平面図形と立体図形の違いについて考えさせ、立体に興味を持たせた。次に、5種類の正多面体(正四面体、立方体、正8、12、20面体)を組み立ててさせ、それぞれの立体の面、頂点、辺の数を数えさせた。そして、最後に立体の面、頂点、辺の数の答え合わせをして、 $(\text{頂点の数}) - (\text{辺の数}) + (\text{面の数}) = 2$ になることを計算させ、オイラーの定理が成り立つことを確認した。



オイラーの定理は高校生で習うことであり、小学生や幼稚園の子どもたちには難しい内容であるので、興味を持ってもらえるのか不安だった。しかし、実際に授業を行うと子どもたちは皆興味を持って聞き、発問に対しても全員が意欲的に手を挙げて発言する姿勢を見せてくれた。さらに、授業後には「なんでそうなるの?」と積極的に聞いてくる子や、「帰ったら調べる!」と言ってくれた子もいた。面の数が多くなってくると立体を作るのが難しくなるので、「どの辺がくっつくと思う?」などと助言をしながらグループをまわることによって全員が作ることができた。ただ、想定より時間がかかってしまったため、まとめの部分が少し駆け足になってしまう課題点があった。解決案として、導入で時間をかけすぎず、組み立てを余裕を持って楽しめる時間をかけることが考えられる。

今回の講座を通して、授業を準備して考える難しさを知ると同時に、子どもたちに興味を持って楽しんでもらえる喜びを感じた。今後の実習などでもこんかいの子どもたちと関わった経験を活かしていきたいと思う。

数学領域2年生 福井溪太

17. 折り紙マンとゆかいな紙々

担当学生 岩野・土谷・狩谷・森川・藤本 担当教員：高野啓児先生

◎内容

事前申し込みで、児童と保護者を10組招き、45分の講座を開いた。本講座では資料を見ながら大学生と折り紙をうまく折ることで、ひと裁ち切りで図形を切り出すことを目標とした。事前準備としていくつかの図形のひと裁ち切りを行い、それらを黒板に貼って装飾した。また、図形の手順が書かれた資料を用意した。当日の流れは、教室に入ってきてくれた子から順に、用意してあった資料の中から好きな図形を選んでもらい、ひと裁ち切りをした。折り紙マンはマントを羽織っており、身体に用意した折り紙を貼り、顔には折った折り紙にはさみを入れて作ったお面をつけることで折り紙マン要素を取り入れた。完成した折り紙は用意しておいた大きい画用紙に貼ってもらい、子どもたちが持って帰れるようにした。



◎反省

準備としてひと裁ち切りをした時の反省を活かして、手順や折り曲げる向きに注意して教えるように意識した。その結果、子どもたちみんな上手くひと裁ち切りでき、作りたかった形が完成して喜んでいた。本講座には小学校低学年から中学年まで様々な年の子供たちが参加しており、折り紙があまり得意でない子やとても得意な子までいて、作る難易度の異なる図形をたくさん用意していて良かったと感じた。また保護者の方にも子どもたちと一緒にひと裁ち切りをしてもらったため、子どもと一緒に楽しく教えあいながら取り組んでいたのが、親子一緒に楽しめる内容になっていたのが良かったと感じた。



◎感想

子供たちはひと裁ち切りが成功して作りたかったが完成していることが分かって「おー凄い!」「やったあ!」と笑顔で保護者の方と話しており、自分たちもその姿を見てとても嬉しくなった。また、小さい子どもでも同じ星の形だけでも色を変えたり大きさを変えたりしながらたくさん楽しんで作っており、小さい子どもでも楽しめる内容になっていたのが良かったと感じた。学年が違うことによって出来ることがかなり異なることを、本講義を通して改めて知ることができ、今まで以上に子ども理解をより深めることが出来たと感じた。

数学領域 岩野元希

18. よごれにアタック！今日からきみも洗たくレンジャー

担当学生：家庭領域2年 小西巧真 守分寛実 藤澤柊花 川上千穂 武富桃歌 神余咲来

担当教員：一色玲子先生

本講座は、シミ抜きの体験活動を通して衣服に付着した身近な汚れの落とし方を学んでもらい、実際に家庭でも実践できるようになってもらうことを目的として開講した。



準備においては、洗たくレンジャーのシナリオづくりや案内用ポスターの作成、実験で汚れとして扱う物の選定などを行った。汚れの選定では、限られた時間の中で、どんな汚れを用意すれば子ども達が楽しんで実験をしてもらえるかを考えながらケチャップや墨汁等を選んだ。また、今回の講座で特に工夫した点として、当日扱った汚れの落とす手順をまとめたプリントを作成・配布したことがある。体験活動を終えた後も、子ども達がプリントを見ながら家庭で実践できると考え作成した。

本番では、実験を手伝うだけでなく子ども達に声をかけ、汚れを落とす際に見つけたコツや特に落とすのに苦労した汚れの種類など、子ども達に質問して回り、実験後に全体で共有も行った。また、子どもによって実験の進行度に少し差が出来ていた。どの子どもにも準備した実験を落ち着いた環境で体験してもらうために実験時間を適宜延長するなど、柔軟に対応できた。

子どもたちに向けた実践は初めての経験で、準備段階では子ども達が楽しめるような活動が用意できるか不安だったものの、活動が開始すると洗剤や道具を使うことで汚れが落ちていく様子を見て楽しんでいる子ども達の姿が沢山見受けられたので達成感を感じることが出来た。今回得た経験をもとにこれからの学習に活かしていきたいと思う。

家庭科領域2年 小西 巧真

19. おはなしのくに 2024

担当学生：教育領域学生 担当教員：櫻井佳樹先生

本講座は幼児・小学校低学年を対象とし、レクリエーションやダンス、劇等を通し子どもたちに楽しんでもらうことを目標に開講した。子どもたちが理解しやすいような内容にするにはどうしたらいいのか、この内容で本当に楽しんでもらえるのか、と領域のメンバーで話し合ったり、先生方や先輩方の意見も参考にしたりしながら、練習を繰り返した。予約人数が少なかったこともあり、不安でいっぱいだったが、当日は予約よりたくさん子どもたちが参加し、笑顔で楽しんでいる姿を見ることができ、我々学生も自然と笑顔になり、会場全体が温かい雰囲気に包まれた。



冒頭でも説明したように、この講座は、レク・ダンス・劇の3部構成で行った。最初はレクである。内容は、『幸せなら手をたたこう』の曲に合わせて、手をたたいたり動物の真似をしたりするというものである。学生が子どもたちの周りでサポートをしながらレクを行った。子どもたちは、一緒に歌いながら元気に楽しんでいる様子だった。次はダンスである。『ハッピージャムジャム』の曲に合わせて、学生が考えた振り付けで一緒に踊った。振り付けが少し難しかったかもしれないが、子どもたちは一生懸命踊りながら楽しんでくれており、会場全体にまとまりができたように思う。最後は劇である。『にじいろのさかな』という絵本を題材に、約15分間の劇を行った。学生全体で協力し、子どもたちが内容を理解しやすくなるような道具や衣装を作成



した。劇内ではBGMを入れたりクイズを組み込んだりして子どもたちが劇に参加できるように心がけた。子どもたちの元気な反応のおかげで、役者たちも練習以上の演技ができていたように思う。子どもたちの笑顔から生まれるたくさんの力をもたらしているのだと改めて感じた講座であった。



20. 運動あそびの学校

担当学生：保健体育領域学生 担当教員：上野耕平先生

年は体育館を半分で分けて、45分間で2種類の運動を楽しむことが出来るように計画しました。楽しむ中でも特に安全面に気を配り、学生たちで実践しながらルールを変えたり、距離を変えたりして工夫しました。また道具も使いやすいように手作りしました。当日は子どもたちも学生も最初から最後まで笑顔で楽しみ、怪我無く終えることが出来ました。

【新聞紙ゲーム】



最初は新聞紙が体から落ちないように走りました。大学生が見本を見せることで子どもたちもすぐに実践してくれました。どうすれば落ちないかを考えながら出来るように声掛けをしました。次にその新聞紙でボールを作り、相手の陣地に投げるゲームをしました。走る、投げるという基本動作で体を動かすことが出来るとともに、道具のロスなくゲームを進められ効率よく運動することが出来ました。

【マーカーゲーム・カードめくり】



マーカー集めでは4か所中2か所を大学生チームにすることで、接触が起らないようにしました。集めるだけでなく、色ごとに点数を付けて少し違った楽しみ方も考えることが出来ました。カードめくりでは新聞紙と段ボールで手作りのものを用意し、対決を行いました。制限時間を設けて、体力のある子どもたちに最大限運動してもらおうことが出来たと思います。初対面の子どもたち同士でも仲良く活動してもらえたので良かったです。

21. 教育学部 SDGs 紹介

担当教員：寺尾 徹先生 高木 由美子先生

SDGs（持続可能な開発目標）は、国際社会における多様な課題に対する意識の啓発と、その解決に向けた行動を促すものであり、地球規模の課題への挑戦であるとともに、国や地域が直面している社会的課題の解決に寄与するものです。香川大学では「SDGs の取組の強化」を重要施策の一つとして掲げ、地域の多様な環境や資源の保全・活用や地域の課題を探究し、持続可能な社会の創造につながる取組を推進してきました。2021年12月には「SDGs 推進タスクフォース（TF）」を設置し全学的な推進体制で活動に取り組んできました。

教育学部も、その活動に積極的に参加し、教育学部の教職員、学生、附属学園の SDGs に関する取組のホームページ上で公開に協力してきました。さらに、SDGs 教育プロジェクトとして、教育学部の教職員、学生、附属学園が行っている SDGs 教育に関する活動を資金援助したり、独自の HP やポスターなどで広報するなど様々な後方支援をしたりしています。今回の未来からの留学生でも、自由参加型講座として、未来からの留学生に参加してくれている児童やその保護者、オープンキャンパスに参加してくれている高校生、そして未来からの留学生を盛り上げている教育学部学生にその活動を紹介する取り組みとして、香川大学教育学部の SDGs の取り組みを紹介し、SDGs 教育プロジェクトのロゴが入った缶バッジを配布しました。多くの子どもと保護者が訪れてくれ、来訪の人数は 180 人

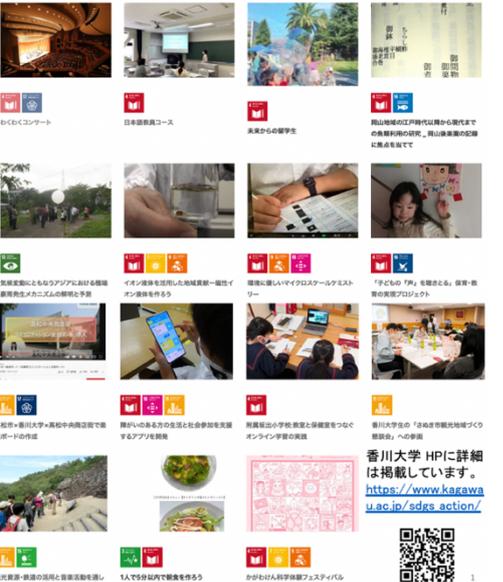
になりました。多くの子どもは学校で SDGs について学んでおり、教育学部で行っている SDGs の取り組みにも興味をもってくれました。教育学部の学生としてこの活動が今後ますます広がっていくといいなと思っています。

2024年10月13日（日） 未来からの留学生



教育学部SDGs 活動紹介

香川大学教育学部は SDGs に関する活動を推進しています。



香川大学 HPI に詳細は掲載しています。
https://www.kagawa-u.ac.jp/sdgs_action/



香川大学 SDGs ホームページ

https://www.kagawa-u.ac.jp/sdgs_action/

井上陽稀

22. 紙コップワールド

担当学生：幼児教育コース学生 担当教員：片岡元子先生



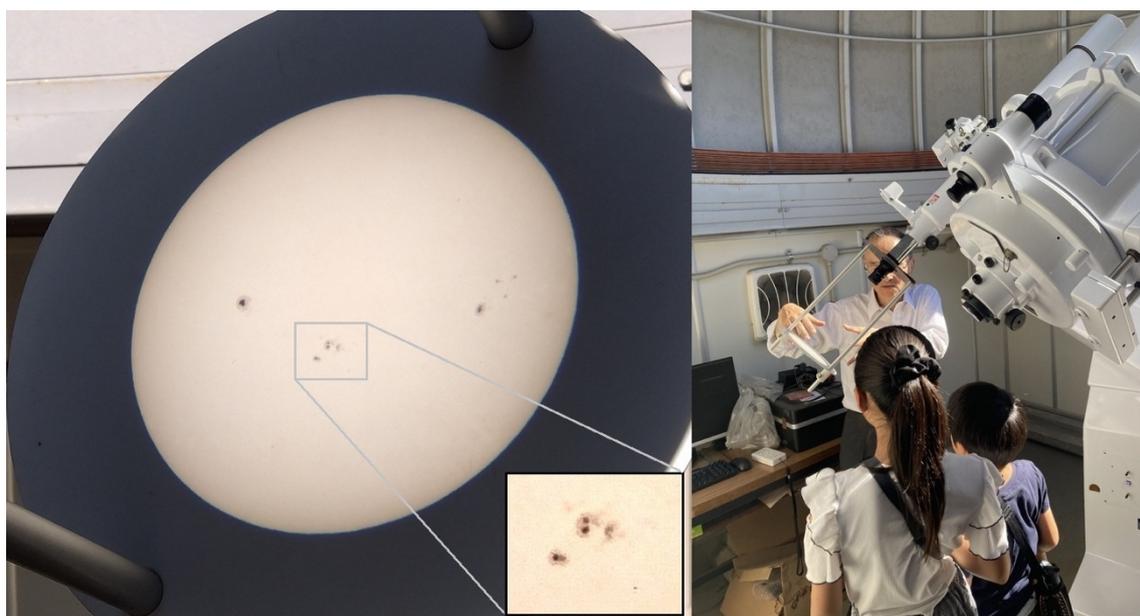
今年も紙コップの講座を開きました。去年同様、様々な作品が見られました。作品を、1人でつくる子ども、お家の人とつくる子ども、周りにいる子ども同士でつくるなど、誰とどのようにつくるかも楽しんでいるように思えました。高く積み上げたり横に広げたりした大きな作品や、小さい作品を沢山作り、それを的に見立てて遊びを展開している姿もみられました。また、つくるだけではなく、壊すことも楽しんでいる様子が見られました。崩れる様子や音、壊す楽しさを感じているようでした。この講座を経て、紙コップ遊びの広がりも感じる事ができました。

幼児教育コース3年 鈴木希良々

23. 太陽黒点を見てみよう

担当教員：松村 雅文先生

自由参加型の講座として、交流棟屋上の望遠鏡で太陽黒点を観察しました。同様な講座は過去にも企画していましたが、2020～2022年はコロナ禍のため、また2023年度は悪天候のため、実施できていませんでした。しかし今回（2024年10月13日）は天気も良く、太陽活動も活発な時期だった（左図）ので、黒点を見てもらうことができました。



【左図】天体ドーム（研究交流棟屋上）の望遠鏡の投影板に映した太陽像（2024年10月10日、準備中に撮影）。白い円（写真では楕円）が太陽の全体像で、右下は中央の黒点の拡大図です。

【右図】説明の様子。数人ずつが説明を聞き、太陽面を観察しました。

当日、開始時間（13時）より前から参加者は訪れて、順次、太陽黒点を見てもらいました（右図）。事前申し込みの講座の開催中は、見学が絶えるのではないかと考えていましたが、終了時間（14時50分）まで、ほとんど絶えることなく続けました。

2020年以前の数年間は、太陽活動が平穏な時期（極小期）であったため、晴れていても黒点はほとんど見られないことが多かったのですが、黒点数は約11年周期で増減をしており、今は黒点が多い時期にあたり、よく観察することができました。このため参加者に好評でした。太陽黒点を観察する本講座は、天気に左右され、黒点自体の活動にも影響されるので、如何ともしがたい面があります。しかし見る事が出来た場合、その分、感動も大きいように思えます。今後も本講座と同様な講座が開催され、参加者に感動を与えることを期待しています。

24. 折り紙パズル

担当学生：生活・総合領域4年 吉本芽衣・3年 青井円、大久保衣純、葛西麻乃、中尾麗美
担当教員：吉澤樹理先生

今年は「折り紙パズル」という講座を開きました。アリの題材とし、子どもたちが4面のパズルを揃えつつ、アリに関して楽しく学ぶことが出来るようにしました。子どもたちは時に学生からヒントをもらいつつ、自らの力で4面のパズルを揃えるよう試行錯誤しながら楽しんでいました。

【学生の感想】

・1回目に声をかけた時に、手が動いていないように感じたので、ヒントを与えた方が良いと感じ、ヒントを出そうとしたが、「自分で考えてみたい」と子どもから言われました。子どもがすぐ、ヒントに頼るのではなく、自分で考えようとする姿を見て、子どもに委ねることも大切だと思いました。

・「折り紙パズル」の活動を通して、子どもを褒めることの大切さを学ぶことができました。段階的にヒントを与えることを意識しつつ、1つでもパズルを揃えることができたなら褒めるようにすると、子どもたちはより一層嬉しそうな表情見せました。「折り紙パズル」を通して得た成功体験は、他の物事に対してもチャレンジしようとする力になると考えました。子どもの少しの成長を褒めることは、子どもにとって大きな自信になると感じました。

・最近の子どもたちは考えることをしないというのが問題になっていると聞いたことがあるが、この自分で考えて答えを出すという経験が、子どもたち乗った考える力の育成に繋がると活動を通して感じました。また、絵柄を合わせるのに苦戦していたのに、ヒントをもらい、できると思っていたよりも簡単にできた時の子どもたちは悔しそうな表情でありました。しかし、同じ難易度で折り方も似ている絵柄が2つあったので、次こそはという意欲を持って取り組めたのではないかと感じました。



生活・総合領域 3年

25. なりきりアートギャラリー

担当学生：美術領域コース生 担当教員：尹智博先生 吉川暢子先生

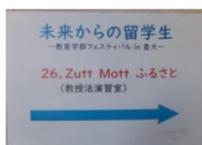
本講座は自由講座として「模擬教室(24の瞳)」で行われた。当日はたくさんのお子様たちや保護者の方々が参加し、各々、自由に名画の背景看板前で撮影をし、独自の写真作品を完成させていた。



美術教育において鑑賞は大きなテーマの一つであり、「なりきりアート」の参考画を基に、親子でその絵の構図や小物などの使い方、背景と撮影ポイントの位置関係などを話し合いながら進め、様々に工夫している光景を目にし、美術教育の一つの在り方が、空間内にあった事を実感した。

26. Zutto Mott ふるさと

担当：香川県教育委員会



担当：香川県教育委員会事務局義務教育課
& 学生ボランティア

○しおり・缶バッジ作りコーナー

香川の名所・特産品のシールをはったり、自由にイラストを描いたりして、しおりを作りました。缶バッジ作りも人気でした。



○かがわふるさと百人一首体験コーナー

(必勝講座・かるた体験)

「かがわふるさと百人一首」のかるたで勝つためのポイントを真剣に学んだり、家族で実際にかかるたを体験して楽しんだりする姿が見られました。



○ふるさとを知らうクイズコーナー

(かがわふるさと百人一首クイズ)

各地域の百人一首の歌から作ったクイズに挑戦しました。意外と難しく、苦戦する参加者がたくさんいました。



○香川の子どもたちに贈る100冊コーナー

(読書、読み聞かせ、読書クイズ)

本に親しむ姿がたくさん見られました。クイズに答え、もらった読書バッジをうれしそうに持って帰っていました。



○受付 (スタンプカード→イベントロゴバッジ)



香川県教育委員会が令和4年度に開発した教材「かがわふるさと百人一首」を中心に、楽しみながら、ふるさとの「人・もの・こと」を知る機会となりました。また、県教委選定の「香川の子どもたちに贈る100冊」のコーナーでは、読み聞かせやクイズなど、読書に親しむことのできる活動を行いました。

自由参加講座であることを活かして短時間でも参加してもらえるように声掛けし、会場内には途切れることなく活動する子どもたちの姿がありました。

子どもたちがふるさとのことを「知りたい」と思ったとき、より主体的に関わり、自由に表現できる活動内容になるようにさらなる改善をしていきたいと思えます。

